



# 頑張れ！緑中

2009年12月25日(金)  
平成21年度 第10号 2学期⑤  
飯田市立緑ヶ丘中学校新聞係

## 二学期終業式を迎えて

### 『汗をながす』『仲間をつくる』を振り返る。



#### 「二学期でがんばったこと」

1年生 女子

私は、2学期でがんばったことが2つあります。

1つ目は、部活動です。私は、女子バスケットボール部に所属しています。毎日の練習は大変ですが、うまくなるためにがんばっています。部活が始まる前には、早く行って準備をすることを心がけてがんばってきました。しかし、部活中に声を出すことを忘れてしまい、出ていないときがあるので、3学期は、声を出すことを目標にがんばっていきたいです。

2つ目は、挨拶です。2学期は、自分から積極的に先生や先輩方にあいさつをすることができました。3学期も積極的にあいさつすることを意識していき、さらに、大きな声であいさつできるようにがんばりたいです。3学期は、この2つを目標にきちんとした学校生活を送るとともに、部活動に一生懸命取り組みたいと思います。

#### 「二学期を終えて」

3年生 男子

2学期が終わりました。

この2学期は僕にとって最後の2学期でした。いろいろな「最後」がありました。中でも僕の中に一番強く残っているのは、緑樹祭です。今年の緑樹祭は、第50回記念ということで、新しい企画ができた、いろいろが盛大に行われました。なかでも、「音楽会」と「いじめ追放運動」は印象に残っています。

音楽会では、僕のクラスは金賞をねらって一丸となって歌いました。本番までの練習では、音楽係、伴奏、指揮者が中心となってクラスをまとめてくれました。最初はまとまらないこともありましたが、それでも一生懸命練習し、その結果クラスの皆が「輝く」ことができたと思います。いじめ追放運動は、クラスごと、学年ごとでいじめに対する決意を表明しました。クラスの皆で意見を出し合い、自分たちのクラスの決意を考えました。自分たちで決めた決意を全校の前で声に出していることで、僕のいじめに対する意識を高めることができました。自分たちの決意を卒業するまでしっかり心に刻んでおきたいと思います。

最初にいろいろな最後があると言いましたが、3年生には「新しい」ことが1つだけあります。それは、中学3年生全員が乗り越えなければならない受験です。

僕たち3年は今、毎朝7時45分から8時5分までの間、全員参加型の朝学習を行っています。

僕は正直に言って、受験は嫌いです。ずっと勉強をしなくてはいけないし、そのせいで自然にストレスが溜まっていき、つい、イライラしてしまいます。友達と話をしても、何とか受験というワードが出てきてしまいます。受験が生活にまわりつくからです。しかし、やらなくてはいけないのです。それは、自分の将来の為だからです。勉強することがいやになる時もありますが、そういうときは、少し休憩して、自分の勉強に対する気持ちを高めてから、また机に向かいます。自分なりに工夫して、計画的にやるのが大切だと実感しました。苦しいことの先に楽しい未来が待っていると信じて、これからも頑張っていきたいです。

僕のこれからの目標は、自分の第1志望の高校に合格すること、そして何より、残された中学校生活1日1日を思い切り楽しむこと、最後には笑顔で卒業することです。

## 2学期 みどりの心大賞



今年から始まった「みどりの心大賞」。2学期は、全校のためにゴミ出し当番活動を継続した、整美委員会正副委員長の皆さんが受賞しました。

## 12/25 『2学期終業式』校長先生のお話

### しあわせの五・七・五

メーテルリンクの『青い鳥』のお話。幸せの青い鳥を探しに旅に出たチルチルとミチルがあちこちと尋ね歩いた挙句、家に戻るとそこに青い鳥がいたというお話です。幸せというものは追い求めても得られるものではなく、私たちの心の中にあるということですね。

あるラジオ局で「しあわせの五・七・五」という川柳の番組をやっています。身近なところにある幸せ感を拾ってもらおうと、視聴者に「幸せはこんなものかなかき氷」の下の句「かき氷」に代わるものを考えてと呼びかけたところ、たくさんの句が集まったそうです。その話を聞いて私も、3年の国語の授業で「しあわせの五・七・五」を作ってもらうことにしました。次はその作品です。

- ・ **幸せはこんなものかな眠り時** 「一日疲れたときに布団の中に入ったときの解放感のようなものが心地よいから」との添え書き。さあこれからぐっすりと眠れますよという丁度このときがいいんですね。
- ・ **幸せはこんなものかな昼休み** 「お昼時ってぼかぼかと暖かいし、給食も食べて満足。そして何より友だちといろんな話ができて楽しい」という作者の言葉でした。
- ・ **幸せはこんなものかな冬の風呂** 寒い冬には温かなお風呂が一番。お風呂の中で縮こまっていた体が解放される、この気持ち、よくわかりますね。冬ならではの楽しみにこんなものもあります。
- ・ **幸せはこんなものかな掘りごたつ** 「掘りごたつ」、知っていますか？炭をおこしたおきで温まるごたつです。電気炬燵とは違うぬくもりで足下からじんわりと温めてくれます。
- ・ **幸せはこんなものかな空の虹** この句のとおりですね。美しい虹を見ると幸せな気持ちになる、何かいいことありそうな気持ちになるのはなぜでしょうか。

さて、先ほどの「しあわせの五・七・五」の番組の中で、選者が選んだ『幸せ大賞』は・・・。

- ・ **幸せはこんなものかな半分こ** 「エー、半分こかあ。幸せが半分になっちゃう」と不満に思う人はいませんか。「幸せはこんなものかなひとりじめ」ですよね。人間にはパンでもケーキでも1人で丸ごと食べたいという欲望がある。だけどたくさん食べてもただそれだけの味でしかない。全部丸ごと自分のものにできる幸せよりも、たとえ半分になってもわかちあう人がいて、「おいしいなあ」「おいしいねえ」といって食べると、幸せな気持ちも倍になるんですね。

先に紹介した句とこの句には少し違いがある。「やすらぐなあ」とか「あったかいなあ」とか「きれいだなあ」とかいうのは自分の五感を満足させる喜びです。しかし「半分こ」には自分の五感を満足させるだけでなく、相手の喜びを自分の喜びとして共感できる力が働いている。皆と分かち合う喜び、それが『大賞』に選ばれた理由でしょうか。

3年生の作った句にもどりましょう。この時期にふさわしい句を紹介します。

- ・ **幸せはこんなものかな大晦日** 大晦日に幸せを感じるってどういうことでしょうか。除夜の鐘を聞きながら今年1年が無事に送れたことに感謝して新しい年を迎える。いいこと悪いこと、いろいろなことがあった1年だけれども、自分も家族もこうして1年を終えることが出来る。普通で当たり前のような気もしますが、1年間を生きてきたということとはとてもすごいことだと思います。

数え年って知っていますか。現在は生まれた年は0歳で、誕生日が来ると1つ年をとる満年齢ですが、昔は生まれた年を1歳としてお正月が来ると1つ年をとるという数え年でした。なぜ、生まれた年が1歳なのか。それは、お母さんのお腹の中で私たちが芽生えた時を人間の命の誕生と考え、お腹にいる間、つまり妊娠期間中の十月十日を約1年と考えるからです。なぜ、お正月が来ると1つ年をとるのか、これはお正月に歳神様をお迎えし、歳神様の御霊をいただくことで1つ年を取るという考え方からです。「数え年は命を授けてくださる神様への感謝の気持ちを込めた年齢の数え方」とも言えるでしょう。私たちが無事にこの1年を終わりにすることができるのも、「半分こ」と、分け与えてくれたり支えてくれたりした多くの方々のおかげです。

「一年間私たちを見守ってくれてありがとうございます」と感謝の気持ちで今年を送り、年が明けたら、「新しい命をいただいてありがとうございます」と感謝の気持ちで新しい年を迎えましょう。

2009年 大変お世話になりました。

2010年が地域の皆様にとって

よりよい1年であることを祈っています。

